

第8期介護保険事業計画「取組と目標」に対する自己評価シート

課所名・担当名	長寿福祉課
担当者名	齋藤芸路

<注>表を結合しないでくだ

資料NO.05-05-02

※「介護保険事業(支援)計画の進捗管理の手引き(平成30年7月30日厚生労働省老健局介護保険計画課)」の自己評価シートをもとに作成してください

保険者名	貴自治体において第8期介護保険事業計画に記載している内容					令和4年度(年度末実績)				公表の状況		
	項目名	細目名	目標を設定するに至った「現状と課題」	第8期計画における「取組」	「目標」 (事業内容、指標等)	中間見直し	取組の具体的な実施内容、実績	自己評価	評価の理由	課題と対応策	実施状況	公表の方法
鳩山町	①自立支援・介護予防・重度化防止	地域ケア会議の充実	高齢者個人が抱える問題は、多様な生活課題を抱えている場合が多くあります。そのため、関係する各専門職がともに把握し共有して連携していく多職種連携が求められています。	支援認定者と対象とした「自立支援型ケア会議」と要介護認定者を対象とした「困難事例検討会」に分け、事例検討会を実施しています。多職種での検討をとおして、町における地域課題の抽出・把握を行い、高齢者を支える資源を開発を行います。	地域ケア会議の開催(開催回数) (R1) (R2) (R3) (R4) 12 12 12 12 検討事例件数 (R1) (R2) (R3) (R4) 12 12 12 12	なし	地域ケア会議において延べ27件の検討を行った。(権利擁護含む。)参加者は、保健・福祉・医療等関係機関職員 R3年度より、地域ケア会議に権利擁護部会を設置(準備含む)。権利擁護部会の参加者は、弁護士、司法書士、社会福祉士、精神保健福祉士、ケアマネ等	○	地域ケア会議の開催(権利擁護部会含) (R1) (R2) (R3) (R4) 10 7 19 23 検討事例件数(権利擁護部会含) (R1) (R2) (R3) (R4) 31 13 35 27	【課題】 ・多くの事例が、多職種での検討が必要な場合が多く、事例の選定方法 【対応策】 ・事例の選定方法を検討し確立する。	実施	介護保険運営委員会に報告
鳩山町	①自立支援・介護予防・重度化防止	保健事業と介護予防との一体的な取り組み	KDBデータ等を活用して地域診断を行い課題を整理します。若い世代からの健康づくりの取り組みの継続が介護予防につながるため、保健部門等関係課、関係機関等と連携し、効果的な健康づくりと介護予防の取り組みについて検討し、推進していきます。	コロナ禍において在宅生活が中心となり、高齢者にとっては外出の機会が減少し、それに伴い自らの健康管理が課題となっています。加えて脳卒中発症率も上昇しており、フレイル予防と脳卒中予防を組み合わせて、町内全域で健康寿命の推進を図る必要があります。そのため、町内数カ所に血管年齢測定機等を設置し、誰もが気軽に利用できるよう整備します。	脳卒中は、高齢者に限らず65歳未満でも発症します。そのため、自らの身体状況を把握し、自己管理等に向けたきつかけとなるように血管年齢測定器を設置します。 ・町内2カ所に設置	なし	血管年齢測定器は、適切に管理する必要があるため、管理人が常駐し、地域の拠点となっている施設(泉井体験交流エリア、地域包括ケアセンター)に設置しました。 ・町内2カ所に設置	○	・身近な場所で、今現在の血管年齢が測定でき、自分の状況を顧みることが出来ます。 ・血管年齢の測定が習慣化されることにより、自らの健康管理を振り返り、行動変容につながる人の増加が期待され、被保険者の介護予防につながります。	【課題】 ・年度末設置のため引き続き周知が必要。 ・設置に至った脳血管疾患予防に対する対策の強化 【対応策】 ・保健部門等と連携した健康教育等での予防事業等の実施	実施	介護保険運営委員会に報告
鳩山町	①自立支援・介護予防・重度化防止	介護予防活動の普及・啓発	本町では、もともと要介護認定率が県内平均よりは低いものの年々上昇しています。高齢になっても健やかで豊かな生活が送れるよう、また活力のある地域社会を目指すため、健康を増進し、発病を防ぐことにより、要介護状態の予防及び健康寿命の延伸を支援していくことが重要です。	リハビリ専門職と連携して、はあとふるパワーアップ体操リーダー養成セミナーを定期的に開催し、地域で活動できるリーダーを育成するとともに、地域の通いの場の拡大を図ります。	新型コロナウイルス感染予防に配慮しつつ、PT、保健師、生活支援コーディネーターによる通いの場の継続支援とリーダーへのスキルアップ研修会(2回)を実施します。 令和4年度 ・参加実人数 20人 ・リーダー登録数(累計) 60人 ・地域活動実績箇所数 5箇所	なし	新型コロナウイルス感染予防に配慮しつつ、PT、保健師、生活支援コーディネーターによる通いの場の継続支援とリーダーへのスキルアップ研修会を実施しました。 令和4年度 ・参加実人数 10人 ・リーダー登録数(累計) 76人 ・地域活動実績箇所数 9箇所	◎	・コロナ禍の中、PT、保健師、生活支援コーディネーターと連携して、感染予防対策、参加者へのフレイル予防支援等、リーダーの相談に応じた通いの場運営への支援、参加者への支援を実施した。 ・コロナ禍の中でもリーダー養成セミナー参加者は前年度よりも増えている。目標値も超えている。 ・リーダー登録数 76/60人=126%	【課題】 ・地域ごとの運営に関する運営課題等が生じてくるため、定期的なフォローが必要。 ・リーダー育成が継続的に必要。 【対応策】 ・PT、生活支援コーディネーターと連携し、リーダー各通いの場の定期的な支援の継続。 ・地区の核となる人材と協議・相談しながらリーダー育成をすすめ活動の拡大を図る。	実施	介護保険運営委員会に報告
鳩山町	②給付適正化	住宅改修等の点検	介護給付の適正化の基本は、介護給付を必要とする受給者を適切に認定した上で、受給者が真に必要なサービスを受け、事業者がルールに従って適切に提供するよう促すことです。保険者が介護給付の適正化を図ることは、利用者に対する適切な介護サービスが確保されるときに、不適切な給付が削減され、介護保険制度の信頼感を高めることに繋がります。	介護給付適正化の取組をより効果的かつ円滑に進めていくため、引き続き介護給付の適正化の推進を図ります。	保険者が改修事業を行おうとする受給者の実態確認や工事見積書の点検、竣工時訪問調査等を行って施工状況を点検することにより、受給者の状態にそぐわない不適切又は不要な住宅改修を排除します。 令和4年度 実施予定1件	なし	住宅改修の事前審査後、実際に現地へ行き、受給者及び施工業者と共に改修内容を確認。適切な改修であることを確認しました。 令和4年度 実施 7件	○	・実際に現地での確認を行い、住宅改修に関する適正の確認を図ることができました。	【課題】 住宅改修事業者との連携の促進 【対応策】 地域ケア会議への参加要請	実施	介護保険運営委員会に報告